厳神青

会長就任挨拶

第三十一代会長
谷藤大典

畏くも天皇陛下におかせられましては、今月一日をもって御即位より五年の佳節をお迎え遊ばされましたこと大慶至極に存じ上げます。また、神宮におかれましては諸祭恙なく執り行われておりますこと慶賀に存じ上げます。

常日頃より、岩手県神社庁様を始め県内各神社宮司様、先輩諸兄姉並びに関係各位におかれましては、当会の活動に対しまして格別の御指導・御支援を賜っておりますこと、衷心より篤く御礼申し上げます。

早いもので、令和三年五月に第三十一代の会長を引き継いでより、任期二年を迎えることとなりました。この間、岩手県神社庁様をはじめ県内各神社宮司様、先輩諸賢より公私に亘り、御指導御鞭撻を賜り、大過なく任を全う出来ましたこと、衷心より篤く御礼を申し上げます。私自身の卒会まではまだ多少時間があるため、今後は一兵卒として会務に微力を尽くそう思っていた矢先、本年一月の臨時総会において会員一同より再びの推挙、御承認を賜り引き続き重責を担うこととなりました。あらためて、昭和二十四年の創立以来、先輩諸賢が紡いでこられた長き歴史、伝統に身が引き締まる思いであります。引き続き、会員一同と共に活動に邁進し、斯道の興隆に努めていく所存であります。

さて、あらたな令和五年度・令和六年度でありますが、新型感染症は今月をもって収束へ向けて新たな局面をむかえます。この数年、中止せざるを得なかった事業等も多々あり実施できる喜びはあるものの、一からで無いにせよ事業を復活させる難しさと向き合うこととなるでしょう。そのことに留意しつつ、この二カ年をかけて感染爆発前の状態を取り戻してまいります。その中でも来月、本県において四十九年ぶり二回目となる全国植樹祭の開催に際し予定されている、天皇皇后両陛下の行幸啓の御奉送迎は大変に畏れ多くも、大きな喜びがございます。岩手県神社庁様・気仙支部様と連携し、御奉送迎を県民一体となり実施できるようしっかりと取り組んでまいります。また令和六年三

月には当会創立七十五周年の節目を迎えます。言うまでもなく、当会の創立は昭和二十四年三月であり、先の大東亜戦争の敗戦後、国土と国民は惨憺たる打撃をうけ、その後の占領政策により人心の荒廃も著しい最中、先輩諸賢が祖国復興と皇統護持を決意し、優れた叡智と篤い情熱を結集して創立されました。この原点に会員一同が、今一度立ち返る機会であると認識し、その上で形となる記念事業を行いたいと考えております。

昨今、「自由」・「平等」・「差別の無い」等の耳触りの良い言葉を用いて、人心を惑わし只々対立を煽る風潮が増えてきたことに誠に憂念禁じ難き思いを致します。そこには、理解や協調はおろか理想とすべき社会像も表立ってはない（敢えて示さないもしくは示せない）のです。「官武一途庶民ニ至ル迄各其志ヲ遂ケ人心ヲシテ倦マサラシメン事ヲ要ス」、誠に畏れ多いことながら、この「五箇条の御誓文」の一つこそが神道がめざすべき社会なのだと考えます。この極めて現実的且つ広大な理想実現のために、その時代ごとに先輩神道人が、如何にして不変の部分を守り（どう守るために）、そのためにどこを変えるのかという叡智の上に、今日成り立っているのであります。そのことに今一度思いを致し引き続き、会員各々研鑽を積み、常に課題・問題に対し当事者意識をもち実践につとめて、愚直に青年神職「尖兵」としての在り方と向き合ってまいりたいと思います。

谷藤会長期新体制決定（令和五・六年度）

会長
盛岡市　谷藤　大典

副会長
紫　波　坂本　清子
気　仙　長谷川　悠
江　刺　阿部　敏宗

常任委員
紫　波　廣田　澄人
西磐井　小野　宏之
気　仙　熊谷　典昭
上閉伊　佐々木浩明
上閉伊　多田　明訓
宮古市下閉伊郡　橋本　健太
西舘　眞澄

常任・地区委員
九戸郡　工藤　慎一

監事
上閉伊　花輪　宗嗣
気　仙　榊原　裕一

地区委員
盛岡市　西舘　徳史
紫　波　田村　寛仁
花　巻　小田島崇道
北上市和賀郡　伊藤しずか
奥　州　荒澤　雄翔
千田　和典
高橋　徳東
佐藤　史大
山本　雄麻
西磐井　榊澤　卓
東磐井　奥山　智行
気　仙　細越　大誉
上閉伊　山根　達大
宮古市下閉伊郡　富田　大和
西舘　澄実
中野　忠司
戸田　祥元
久　慈

事務局長
二　戸

事務局次長
盛岡市　藤原　和修
北上市和賀郡　菊池　祥隆

書記
久　慈　新里　智紀
盛岡市　鈴木　翔太郎
花　巻　稲田　典英
宮古市下閉伊郡　上澤　和成

岩手県神道青年会の皆様へ

第三十代会長

藤　原　大　修

先づ以て、謹んで聖寿の万歳と皇室の弥栄をお慶び申し上げますとともに、神宮におかれましても諸祭恙なく御斎行の由を承り、慶賀に存じ上げます。

さて、岩手県神道青年会を卒会するに際し入会してからのことを振り返ってみると、その青年期では貴重な経験を多く積むことができ、とても有意義な時間を過ごすことができたのだと感じています。それはやはり、先輩諸兄姉の皆様から頂いた多大な御指導と周囲の多くの方々の御理解と御協力があったからこそだと改めて感謝申し上げます。

約十二年間では多くの出来事がありました。第六十二回式年遷宮や天皇陛下御在位三十年記念式典の佳節に際しては、国を挙げての奉祝の機運醸成に努めるべく、奉祝行事に積極的に参画しました。また終戦七十年に際しては全国の同志とともに、戦歿者と国家再興に尽力した先人に思いを馳せ、感謝と哀悼の誠を捧げました。そして東日本大震災や熊本地震、全国各地での豪雨被害や土砂災害などの自然災害を経て失ったもの大きさに胸を突き刺されました。急激な人口減少や過疎化が迫る中にあって、一人ひとりが多くの役割を担って保たれていた村々は、その災害を境に減退し或いは消滅してしまうのではないかと悲観的に考えてしまうこともありました。しかし、発災より十年以上経過し復興が未だ道半ばの所は多々あろうとも、先人たちが守り伝えてきたその地に関わりがある人たちは、その時から未来を見据えて今を生きています。上皇陛下におかせられましては、いち早く被災地へと赴かれ人々を励まされるとともに、深い黙祷と被災地の復興を御祈念あそばされてをられます。平成の御代、上皇陛下の歩みは常に国民と苦楽をともにされ、国の隆昌と世界の共存共栄に大御心を傾けてこられました。だからこそ私たち青年神職は常に大御心に少しでも副い奉るために覚悟を持って行動してまいりましたし、これからも行動し続けなければなりません。

また、特別な中にも特別な時を仲間と歩む喜びを体感しました。それは二百二年ぶりとなる御譲位による御代替りという特別な時です。昭和から平成の御代替りの折には、全国各地の御社で放火事案が相次ぐなど不穏な動きもあり、御譲位の安泰を祈り警戒を強めたこともありましたが国民挙って奉祝の内に御大礼の諸儀式が斎行され大嘗祭後の大嘗宮一般参観の来場者は平成時を凡そ三十四万人上回る七十七万二千人にも上り、皇室への敬慕と感心が高まっていると言えるでしょう。御代替りという特別な時に臨むにあたり、青年神職として奉祝の機運醸成に努め、国民等しく奉祝の内に御大礼の諸儀式が恙なく斎行されることに寄与するため天下大祓等の活動をしてまいりました。

初春の今月にして、気淑く風和らぎ、梅は鏡前の粉を披き、蘭は珮後の香を薫らす。人々が美しく心を寄せ合う中で、文化が生まれ育つという意味が込められた「令和」という元号。五月一日に新たな時代を迎え、国内外で祝賀を共有しようとする雰囲気が広がり、輝かしい未来に向けて進み始めてから間もなく、令

和二年の年明けから海外での感染者報告が相次ぎ、程なくして国内でも感染者が増加した新型コロナウイルスは世界に大きな影響を与え、何れの業界においても感染症を抜きに語れる令和二年の歴史は存在しないでしょう。当たり前のことが当たり前でなくなった世の中において、神社においても当たり前の光景は一変しました。御社頭における諸対応に追われ祭礼や神賑行事の規模縮小や中止を余儀なくされ、氏子崇敬者との接点は激減し、また会議や会合の開催形態は根本から見直しを迫られました。人々の価値観と生活様式は目まぐるしく変化していますが神祇祭祀が日本の精神的基盤であることは不変であるからこそ、私たちは何を考え、何を学び、何を行うのかが問われていた時なのだと改めて感じています。そのような中で小笠原諸島日本復帰五十五周年、沖縄本土復帰五十周年を迎え、今を生きることができているのは国の為に散華された英霊のお蔭であるということは決して忘れてはならず、沖縄戦歿者遺骨収集を行いました。皇室敬慕・神宮尊崇・英霊顕彰の心を持ち、伝統を守りながら新たな取り組みに目を向け、神社神道の興隆に寄与すべくこれからも行動し続けなければならないと考えています。

結びに、岩手県神道青年会の皆様へ。人は生きるだけであれば一人でも可能です。しかし自分以外の誰かがいなければ真に豊かな人生を送ることはできません。だからこそ限りある時間の中で、住み暮らす地域の、そして日本のあるべき姿を志向し、一人では達成できないことを実現するために、人の輪を紡ぎ、協働し、困難を乗り越え互いに成長を促し、その縁を未来に繋いでいかれることを心から期待しております。

沖縄本土復帰五十周年 国土平安祈願祭

神青協では、昭和三十三年より沖縄県の本土復帰運動に取り組み、昭和四十七年には、復帰記念として全国の名石を持ち寄り、日本有人最南端の波照間島に「波照間の碑」を建立したのをはじめ、昭和六十年には昭和天皇御在位六十年を記念して「国旗掲揚塔」の建設、また国旗プレートを埋め込んだ「聖寿奉祝の碑」を建立、そして周年毎に奉告祭を斎行してきた。

令和四年に沖縄県が本土復帰して五十年の節目の年を迎へ、全国の同志と共に祈りを捧げるべく国土平安祈願祭を斎行したものである。

令和四年五月十三日（金）護国神社を参拝した後岩手県神社庁神殿にて谷藤会長が斎主を務め、沖縄復帰五十周年国土平安祈願祭を執行した。岩手県神社庁坂本庁長を始め三名の来賓、当会会員が参列し、皇室の弥栄、国土の平安を祈念した。

沖縄県が本土復帰を果たした五月十五日には各奉務神社にて国家平安祈願祭を執り行われ全国の会員が心ひとつに、国土の平安と悠久の平和を祈願した。

岩手護国神社参拝

神社庁神殿にて祭儀

金ヶ崎神社 志賀理和氣神社 遷座祭

金ヶ崎町鎮座、金ヶ崎神社（当会第二十八代会長菅原政憲宮司）は県内唯一の重要伝統的建造物群保存地区に鎮座し、保存物件でもある築二八〇年を数える本殿の解体復元工事を中心に、境内の景観整備も含めた御造営を行った。

本殿の解体を前に、依頼を受け、令和三年八月二十八日（土）午後七時より総代長、実行委員長をはじめとした来賓、多数の一般参列のもと厳かに斎行され松明の先導に続きご神体が仮殿である神楽殿へと遷座された。当会より会長以下九名が奉仕した。

「変わらぬ姿をこの先の未来へ」との思いにより御造営は進められ、令和五年三月二十五日（土）午後三時より雲を割って降りそそぐ日差しのなか多数の来賓、一般参列者参列のもと本殿遷座祭が斎行され、改修を終えた本殿へとご神体が遷座された。会長以下四名が奉仕した。

祭儀後プラザイン水沢にて開催された祝賀会にもご招待され、労いを受けた。

伝統ある崇敬の念と景観を後世に継承する歴史の一幕に奉仕する機会を頂いたことに感謝申し上げます。

また、令和三年九月十七日（金）紫波町鎮座志賀理和氣神社（当会第十七代会長田村勝則宮司）では、国の進める北上川水系築堤事業により境内の全面移転が行われた。旧本殿の解体を前に令和三年九月十七日（金）午後七時より仮殿遷座祭が斎行され仮殿にご神体が遷された。会長以下五名が奉仕した。

令和三年十二月二十七日（月）午後四時、本殿遷座祭が斎行され、浄闇のなか多数の参列者に見守られご神体が新築された本殿に遷座された。会長以下二名が奉仕した。

盛岡少年院・盛岡少年刑務所収穫感謝祭

岩手県神社庁を通じ依頼を受け令和三年十一月二十四日（水）盛岡少年院収穫感謝祭を執行した。この年盛岡少年刑務所の収穫感謝祭は感染症対策のため中止となった。

また、令和四年十月二十九日（土）盛岡少年刑務所収穫感謝祭を執行した。この年盛岡少年院の収穫感謝祭は感染症対策のため中止となった。

中学校平安装束着装体験授業

第一回　令和四年十月七日
　奥州市立前沢中学校
　　二学年
第二回　令和五年十月十二日
　岩手大学教育学部附属中学校
　一学年
第三回　令和五年一月三十日
　奥州市立前沢中学校
　一学年
第四回　令和五年二月二十日
　一関市立東山中学校
　一、二学年

学校教育の現場で平安時代の勉強をする中学生が装束の着装体験を通じて、資料集などを用いた座学では得られない風俗への理解を深めるため、また、装束体験を通じて神社への興味関心を得られることを期待し、授業に協力するものである。本年は岩手県内の中学校四校で授業協力を行った。体験前に資料集や板書などを用いて装束の形、着装の手順などを説明し、実際に着装の体験となった。学生たちは不慣れながらも会員の手助けを受けながら、互いに着装させあった。衣冠や狩衣、水干、巫女装束など普段身に着けることのない装束に身を包み、教科書や昔話で目にする姿を楽しみつつ、洋服との違いや、着装する事の難しさ、身に着けて生活することの大変さに理解を深めていた。

当会としても得難い経験を得られ教育現場での活動ができたことを今後の糧とし継続していきたい。

令和５年（2023）２月２３日（木曜日）

講師の神職（中央）から教わりながら平安時代の装束を体験する東山中の1年生

平安の暮らし 思いはせ　東山中生 装束体験

一関市東山町の東山中学校（佐藤勉校長、生徒136人）の1、2年生は22日、社会科の授業の一環で平安時代の装束について学習し、当時の装束「衣冠」などの着装を体験した。普段着ている洋服とは全く違う着心地を体感した生徒たちは平安時代の暮らしに想像を膨らませ、時代の移り変わりに思いを巡らせた。

社会科担当の小野宏之講師（37）が平泉町の中尊寺、毛越寺や盛岡市、奥州市など県内の神社の若手神職3人を講師に招き開催。1年生は「平安時代の貴族の暮らしを多角的に考察し社会の変化を考える」、2年生は「大政奉還や明治維新が社会に与えた影響を装束のテーマに授業を進めた。

このうち、42人が参加した1年生は男子が衣冠と狩衣、「直垂」、女子が正装と常装、巫女の装束について講話を聞き、装束の部位の名前や特徴、役割などを学んだほか、教人一人が着装や着付けを体験した。

県神道青年会の谷藤大典会長は衣冠や狩衣、直垂について紹介し「平安時代は服装によりその人の身分や立場が分かった」と現代との大きな違いを語った。

衣冠の着装を体験した鈴木聖太さん（13）は「剣道部なので袴には慣れているが、この服はすごく動きづらかった。見た目より重さもあり、服装からいえば平安時代にはあまり行きたくないと感想を述べた。

一水干」などを着た小野心夢さん（13）は「意外に軽く普通の着物より動きやすかったけど、着たり結んだりするのが難しかった。毎日これを着ると大変だと思った」と平安時代の人の苦労を想像していた。

若手神職らと共に県内の中学校などで着装体験の取り組みを続ける小野講師は「当時着ていた装束に袖を通してもらい生徒に平安時代の貴族の生活について学んでほしい。こうした装束を受け継いで神職が仕事をしていることも知ってもらえれば」と記していた。

地元紙に掲載された記事

学生が互いに着せあう様子

授業の様子

時局講演会

令和五年四月二十四日(月)午後一時より岩手県神社庁にて講師に元参議院議員平野達男先生、岩手県議会議員米内紘正先生を迎え、当会主催の時局講演会が開催され会長以下十二名が参加した。本年予定されている統一地方選挙に向けて支援活動の意義を再確認する講演会となった。

【第一講】
「岩手県知事選挙・
　県議会議員選挙の論点」
講　師　平野　達男　先生

【第二講】
「岩手県議会が果たすべき役割」
講　師　米内　紘正　先生

講演する平野達男先生

講演する米内紘正先生

令和五年度 定時総会開催

議事
1、令和四年度会務報告の件
2、令和四年度収支決算の件
3、役員改選の件
4、令和五年度活動方針(案)の件
5、令和五年度予算(案)の件

令和五年度定時総会は四月二十四日(月)午後四時三十分より神社庁を会場に、坂本庁長を来賓に迎え開催された。

冒頭、坂本庁長より、本年開催される植樹祭について、制限のある中で出来る限りの活動がなされること、斯界を取り巻く環境は厳しい状況にあるが、活発な会議と清新な心を以て斯界の尖兵として失敗を恐れず取り組むこと、新たな取り組みに挑戦し続けていくことを期待する旨ご祝辞を賜った。。

議事は、廣田常任委員が議長に選出され進行。令和四年度会務報告、収支決算について承認の後、新執行部に体制が変わり新役員について谷藤会長より指名、直ちに承認となった。令和五年度活動方針、予算案についても原案の通り可決された。

総会後は場所を移し懇親会が開催され米内紘正県議、坂本庁長を来賓に迎え会員同士の懇親を深めた。

坂本庁長より激励賜る

廣田常任委員が議長を務める

東日本大震災物故者慰霊祭

宮城県石巻市鎮座、鹿島御児神社において東北六県神道青年協議会(宮城県主管)の東日本大震災物故者慰霊祭が令和五年三月十一日(土)発災時刻の午後二時四十六分より一分間の黙祷ののち、厳かに斎行された。

斎行にあたり各県から奉献品が供えられ、神道青年全国協議会小林会長等、多数の来賓が参列した。

神道青年全国協議会が起草し、小野雅楽会の協力を得て上皇陛下の御製「大いなるまがのいたみに　耐へて生くる　人の言葉に　心打たる」、上皇后陛下の御歌「今ひとたび　立ち上がりゆく村むらよ　失せたるものの　面影の上に」に曲がつけられ作成された「光舞(ひかりのまい)」が初めて奉奏された。

活動報告

自　令和四年三月
至　令和五年四月

四　月　四日
岩手県神社庁神殿例祭参列
（岩手県神社庁神殿）
四　月　十三日
令和四年東北六県神道青年協議会
第六回役員会
（山形県神社庁※リモート併設）
四　月　十九日
第四回役員会(リモート形式)
四　月二十三日
神道青年全国協議会第七十三回定例総会(神社本庁※リモート併設)
四　月二十四日
岩手護國神社春季慰霊大祭助勢
五　月　六　日
令和四年東北六県神道青年協議会
第七回役員会(リモート形式)
五　月　十三日
沖縄本土復帰五十周年記念　国土平安祈願祭（岩手県神社庁神殿）
五　月　十三日
令和四年度定時総会(岩手県神社庁)
五　月　十五日
沖縄本土復帰五十周年記念
国土平安祈願祭（各奉務神社）
五　月　二十日
令和四年度神青協「デジタル社会における神社の在り方を学ぶ」ウェブ研修会（リモート形式）
六　月　二日
祭祀舞内覧会参加（小野照崎神社）
六　月　十五日
事業援助金巡回（上閉伊支部）
六　月　十五日
第六回役員会(横山八幡宮)
七　月　四日～六日
令和四年度神青協「神道講話を学ぶ」ウェブ研修会（リモート形式）
七　月　十日
元岩手県神社庁長　荒神社名誉宮司西舘勲氏　葬場祭奉仕
（ＪＡ山田通夜会館）
七　月　十一日
令和四年東北六県神道青年協議会
第八回役員会
（福島県いわき市「いわき藤間温泉ホテル浬」※リモート併設）
七　月　十一日～十二日
令和四年度東北六県神道青協議会
禊錬成会（福島県いわき市「いわき藤間温泉ホテル浬」）
七　月二十一日
事業援助金巡回（北上市和賀郡支部、奥州支部、江刺支部）
八　月二十四日
令和四年東北六県神道青年協議会
第九回役員会(リモート形式)
八　月二十五日
事業頒布品頒布活動
（渡り温泉　ホテルさつき）
八　月　三十日～三十一日
令和四年度神道青年全国協議会夏期セミナー（神社本庁二階大講堂）
九　月　二日
神職のための神宮研修会」ウェブ研修会（リモート形式）
九　月二十一日
東北六県神道青年協議会親睦事業
岩手県神社庁（リモート形式）
九　月二十二日
崇友会主催「米内紘正後援会」
（水沢グランドホテル）
九　月二十九日～三十日
事業援助金巡回
（宮古市下閉伊郡支部、久慈支部、九戸郡支部、二戸支部）
十　月　七日
平安装束着装体験①（奥州市立前沢中学校）
十　月　十二日
平安装束着装体験②
（岩手大学教育学部附属中学校）
十　月　十三日
令和四年東北六県神道青年協議会
第十回役員会(協同大町ビル六階「鳥海」　※リモート併設)
十　月二十四日
山形県神道青年会創立五十周年記念式典出席（山形県山形市　ホテルキャッスル）
十　月二十七日
沖縄本土復帰５０周年記念事業
沖縄戦全戦歿者慰霊祭
（沖縄県護国神社）
十　月二十九日
盛岡少年刑務所収穫感謝祭奉仕
（盛岡少年刑務所）
十　月　三十日
衆議院議員藤原たかし国政報告会及び懇親会（プラザイン水沢）
十一月　十一日
衆議院議員藤原たかしとの意見交換会（花巻温泉　ホテル千秋閣）
十一月　十七日
神道青年全国協議会臨時総会
（神社本庁※リモート併設）
十一月　二十日
第七回役員会(日高神社)
十一月二十四日
令和四年度　東北六県神道青年協議会顧問会
（福島県　ホテルプリシード郡山）
十二月　七　日
令和四年東北六県神道青年協議会
第十一回役員会(リモート形式)
一　月　三十日
平安装束着装体験③
（奥州市立前沢中学校）
一　月　三十日
臨時総会(熊野神社)
会員新年会(大船渡温泉)
一　月三十一日
令和五年東北六県神道青年協議会
第十二回役員会(リモート形式)
二　月　十四日
第二十一回神道政治連盟時局対策連絡会議(自民党本部)
二　月二十二日
平安装束着装体験④
（一関市立東山中学校）
二　月二十二日
新祭祀舞研修会(宮城県神社庁)
三　月　三　日
新祭祀舞研修会（宮城県神社庁）
三　月　四　日
山形県神道青年会　創立五十周年記念事業「未来へ繋ぐシンポジウム」(遊学館)
三　月　八　日～九日
神道青年全国協議会中央研修会
（徳島県　徳島グランヴィリオホテル）
三　月　十一日
東北六県神道青年協議会東日本大震災物故者慰霊祭
（宮城県石巻市　鹿島御児神社）
三　月二十三日～二十四日
神政連役員会、神政連県本部代議員会(岩手県神社庁)
三　月二十五日
金ケ崎神社本殿遷座祭奉仕
（金ケ崎神社）
三　月二十八日
令和五年東北六県神道青年協議会
第十三回役員会(リモート形式)

発　行　岩手県神道青年会
住　所　盛岡市八幡町十三-一
盛岡八幡宮社務所内
電　話　〇一九-六五二-五二一一
ＦＡＸ　〇一九-六五二-五二一二